

(別記)

令和3年度豊川市地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

豊川市の水稲生産農家は、平均経営規模が約30aと小さく、その多くは兼業農家である。一部では、経営規模の大きい担い手農家への利用集積や、担い手農家による麦・大豆のブロックローテーションに取り組まれているが、全体としては、農家の高齢化、後継者不足の影響は大きく、不作付地化が懸念される水田は少なくない。

全水田耕地面積に占める主食用米の作付面積割合が約70%と高いため、飼料用米などの取組を拡大するとともに、ブロックローテーションによる麦・大豆の取組を堅持することで、水田の維持と主食用米の需給調整に取り組んでいく。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化にむけた産地としての取組方針・目標

本市では、加工向けの麦・大豆について、あいち経済連を通じて実需者のニーズに応じた価格・品質等にて提供できるよう、低コスト生産等の取組を行い、計画的に品種誘導・栽培管理を行う。また、新たな栽培技術の普及や管理方法を検討し、収量増大を目指した生産者向けの技術講習会の開催等を通じて、長期・安定取引を目指す。

また、本市では、野菜・花きの栽培が盛んであり、野菜栽培・花き栽培に取り組む可能性のある潜在的な農家は多数存在する。近年、米価が下落しているということもあり、野菜・花きの高収益作物への転換等により収益力の強化を目指す。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

本市では、麦・大豆のブロックローテーションに取り組んでおり、水田の有効利用に向けた産地としての取組を行っている。

また、今年度において本市では、水田農業担い手（以下「担い手」）の農業経営について健全な発展を図ることを目的とした水田農業担い手対策会議を設置する。当会議において、「担い手の経営モデルに関する調査研究」「水田のフル活用における先進事例の調査、研究及び実証実験」等を行い、畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組の方向性を検討する。

また、畑作物のみを生産し続けている水田がないか、今後も水稲作に活用される見込みがないか等点検を実施し、点検結果を踏まえ、生産者に畑地化助成の制度を周知し、畑地化助成に結び付くよう努める。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

本市の主力品種は「あいちのかおりSBL」、「コシヒカリ愛知SBL」などである。

「売れる米づくり」のため、消費者が求める良質な米生産を進め、地産地消を柱とした

安全・安心な米づくりに徹する。

また、農地の利用集積による担い手の経営規模の拡大を図り、安定した水田農業経営の確立を目指す。

(2) 備蓄米 該当なし

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

飼料用米を転換作物の中心的作物に位置づける。

飼料用米の生産拡大にあたっては、愛知県経済農業協同組合連合会等を通じた取組として出荷契約先を確保する。主食用品種を用いた取組とし、省力的かつ高収量を目指す生産を推進し、コスト低減を図る。

イ 米粉用米、オ 加工用米

当面は、飼料用米の取組を主体とし、米粉用米、加工用米については取組計画を有していないが、機会があれば、取組の方向性を検討する。

ウ 新市場開拓用米、エ WCS 用稲 該当なし

(4) 麦、大豆、飼料用作物

(麦)

産地交付金を活用して湿害対策に取組む担い手を支援し、生産性の向上を図ってブロックローテーションの取組を堅持し、麦の安定した品質と収量を確保できる産地体制とする。

また、麦、大豆の作付を繰り返すほ場では、難防除雑草である「ネズミムギ」が増えて麦の生産性が低下するため、農業改良普及課が策定した「ネズミムギ防除技術」に沿った除草対策を徹底して収量の向上を図る。

(大豆)

湿害対策や予察に基づく害虫防除に取組む担い手を支援し、生産性の向上を図って担い手によるブロックローテーションの取組を堅持することで、大豆の安定した品質と収量を確保できる産地体制とする。

(飼料作物)

地域の需要に対応するため、取組を維持する。

(5) そば、なたね 該当なし

(6) 高収益作物

水田を活用した野菜、花き・花木等の生産は米の需給調整に資するため、今後も支援する。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物等	前年度の作付面積等 (ha)	当年度の作付予定面積等 (ha)	令和5年度の作付目標面積等 (ha)
主食用米	890.0	875.0	870.0
備蓄米	0	0	0
飼料用米	33.8	48.0	50.0
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0
WCS用稲	0	0	0
加工用	0	0	0
麦	77.1	80.0	86.0
大豆	63.3	65.0	67.5
飼料作物	1.7	1.7	1.7
・子実用とうもろこし	0	0	0
そば	0	0	0
なたね	0	0	0
高収益作物	86.7	86.7	86.7
・野菜	67.5	67.5	67.5
・花き・花木	19.2	19.2	19.2
・果樹	0	0	0
・その他の高収益作物	0	0	0
その他	0	0	0
畑地化	0	0	0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	
1	麦・大豆 (基幹作)	麦、大豆の生産性向上に取り組んだ担い手への助成	取組面積	(2年度) 麦 62.3ha 大豆 4.9ha 計 67.2ha	(5年度) 麦 70.5ha 大豆 8.0ha 計 78.5ha
2	飼料用米 (基幹作・ 主食用品 種)	飼料用米の生産性・品質向上への助成	取組面積	(2年度) 33.8ha	(5年度) 50ha
3	麦・大豆 (二毛作)	麦、大豆(二毛作)への助成	取組面積	(2年度) 麦 14.8ha 大豆 58.3ha 計 73.1ha	(5年度) 麦 15.5ha 大豆 59.5ha 計 75.0ha
4	大豆(二毛 作)	大豆(二毛作)のブロックローテーションへの助成	取組面積	(2年度) 48.1ha	(5年度) 55.0ha
5	麦(基幹 作)	麦の難防除雑草対策への助成	取組面積	(2年度) 40.1ha	(5年度) 70.5ha

6	飼料用米 (基幹作)	耕畜連携（わら利用）の取組への助成	取組面積	(2年度) 5.5ha	(5年度) 6.0ha
7	野菜(基幹作)	高収益作物（野菜）への助成	取組面積	(2年度) 6.7ha	(5年度) 9ha
8	花き(基幹作)	高収益作物（花き）への助成	取組面積	(2年度) 0.6ha	(5年度) 1ha
9	麦、大豆、飼料用米、野菜、花き (基幹作)	転換作物等拡大加算	作付拡大面積	(2年度) 麦 3.4ha 大豆 2.1ha 飼料用米 2.6ha 野菜 2.2ha 花き 0.3ha 計 10.6ha	(5年度) 麦 8.2ha 大豆 3.1ha 飼料用米 16.2ha 野菜 2.3ha 花き 0.4ha 計 30.2ha
10	野菜、花き (基幹作)	高収益作物等拡大加算	作付拡大面積	(2年度) 野菜 2.2ha 花き 0.3ha 計 2.5ha	(5年度) 野菜 2.3ha 花き 0.4ha 計 2.7ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。

7 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 豊川市地域農業再生協議会構成員一覧添付。